

UMA ライフ 馬 LIFE

2021
2

特集1

その日に備えて予習・復習!

そろりそろりと 海外乗馬

アメリカ〈イエローストーン国立公園〉〈ニューメキシコ州サンアカシア〉 エジプト〈ギザ〉 ドイツ〈アーヘン〉

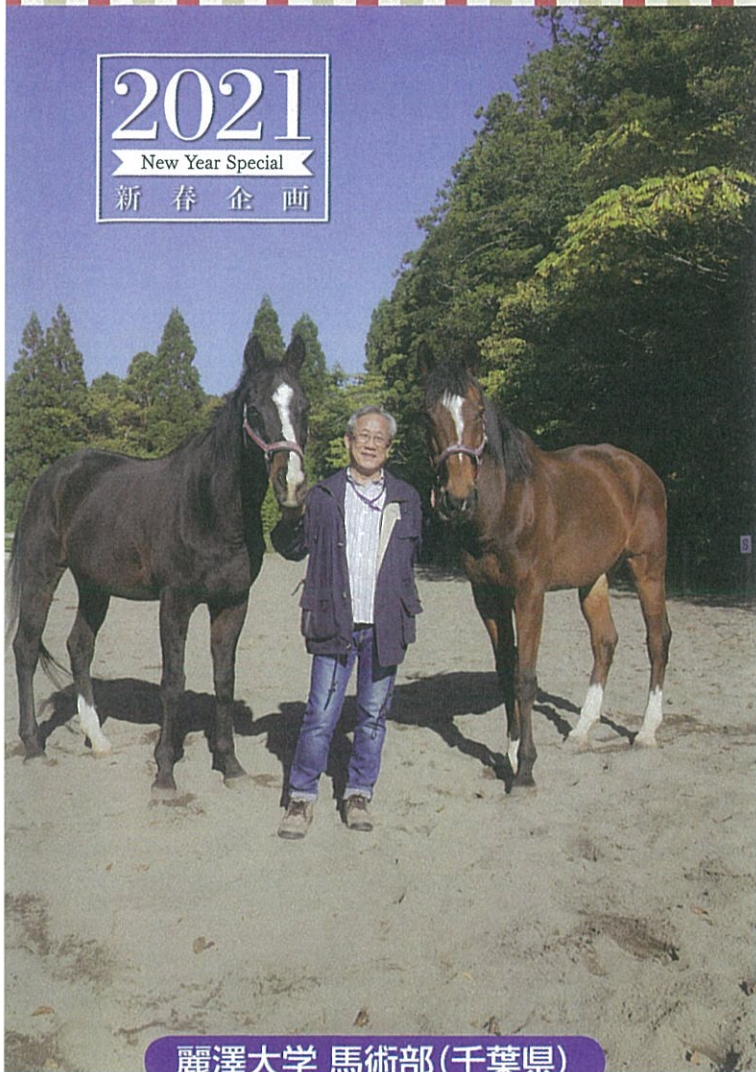
特集2 チャンピオンを目指す! Part2

全日本障害馬術大会 全日本ジュニア馬場馬術大会 全日本パラ馬術大会

2021
新春企画

大学馬術部は
ダイバーシティ
時代へ!

2021
New Year Special
新春企画



麗澤大学 馬術部(千葉県)



馬とふれ合う会の様子。みんな仲が良く、笑顔が自然にこぼれる。

左が麗輝で、右が麗峰。2頭ともとても穏やかな性格で、障がい児でも安心してふれ合える。2頭は中島トニアシュタル(茨城県)の先代オーナーが見立ててくれた。



子どもが騎乗する際は、安全を期して3人のサポーターが付く。

部活動の柱はホースセラピー 馬の可能性を追い求める

競技がメインではなく、馬を通じた社会貢献に尽力する馬術部です。その活動が、人と馬への責任感と思いを育てます。大学馬術部としては珍しい取り組みに、共感が広がっています。

撮影協力=麗澤大学馬術部

今年で創部26年 馬場もない状態からスタート

麗澤大学のキャンパスに馬がやって来たのは1993年9月。乗馬同好会が発足したのは94年4月、95年には馬術部に昇格しました。部員は現在、4年生6名、3年生1名、2年生4名、1年生3名の合計14名です。

通常時の練習は週に4~5回で、練習や作業を合わせて、活動時間は1回3時間程度。春・夏休みは懇意にしている乗馬クラブに馬を預け、そこで合宿を行っています。2020年はコロナ禍で全学的

に部活動が4月から禁止になり、練習はできませんが、馬の健康管理のため2週間に3回、騎乗が許可されています。

顧問兼監督を務めるのは中野千秋教授です。中野さんは麗澤高校から東北大学へ進み、乗馬部に所属。大学から乗馬を始めて、全日本学生馬術大会に出場、団体5位入賞という経歴の持ち主。その後、慶應義塾大学大学院とジョージワシントン大学を経て、専任講師として麗澤大学に戻りました。そのタイミングで、偶然にも同大学の理事長が馬を飼うことを提案。

「突然、大学に馬がやって来ることにな

りましたが、当時は馬場もない状態。倉庫を改造して馬小屋にし、固い土のグラウンドで運動をしていました。柵もなかったので放馬できずに、そのまま引きずられたことも。最初は部員もいなくて教職員ら4人で回っていたので、本当に大変でした。その後馬場も完成し、学生も手伝ってくれるようになったのです」(中野さん=以下同)。

部員の多かった時代は競技志向でしたが、競技メインで厳しくやっていると部員が減っていき、楽しく乗っていると規律がおろそかになるという状況。そんな時にあったのがホースセラピーでした。



馬術部員の練習風景。乗馬技術については、上級生が下級生を指導するスタイル。



長期休みには中島トニアシュタールに馬を預け、合宿を行う。



4年生の追い出しコンパのため、麗澤大学馬術部メンバーが勢揃い。

癒されて優しい気持ちになる 大人も笑顔になれる場所

ホースセラピーは2007年から始めました。きっかけは柏乗馬クラブ（千葉県）で行われていた、NPO法人の活動をお手伝いしたこと。2011～12年は大学馬場で所有馬を用いてセラピーを行いました。2013年からは医療関係者が不在になったため「馬とふれ合う会」と名称を変え、近隣の障がい児とその家族5～7組を対象に、地域のボランティアも一緒に月に2回、会を開くようになりました。

雨が降れば休むなど、無理のない範囲で活動しています。常歩で馬を引き、両脇にサイドウォーカーが付き、1頭につき計3人がサポート。乗馬が目的ではなく、地域の方、学生が一緒になって、みんなでおしゃべりを楽しみながら過ごす時

間です。

「今、日本では障がい者手帳が700万通発行されていて、申請していない人を含めると、1000万に上るといわれています。10人に1人は障がい者という計算です。身近な話ですから、部員たちには、そういう子どもたちと真剣に向き合う社会人になってほしいですね」

活動報告書には障がい児の母親から、さまざまな意見や感想が寄せられます。

「麗澤大学の『馬とふれ合う会』は、何かを強制されることがなく、乗りたくない気分の時は遠くから見ているだけでも、馬を撫でたり、そばにいても癒されて優しい気持ち

ちになり、大人も笑顔になる不思議な場所です」(Aさん)。

「乗馬後、厩舎の片づけが終わり部室にお邪魔しました。部長さんが日誌を書いている時のことですが、目の前で娘が飲み物をこぼし、日誌がびしょ濡れになってしまったんです。普通なら、『ああ～大変だ～!』となるところですが、部長さんは全く動じず、『うん、大丈夫。紙は一杯あるからね』と。それだけでも、すごいなあと思っていたところ、拭き終わってから、『ほら、元通り!』とニコリ! この会には、心の温かいこのような学生さんがたくさんいて、先生、ボランティアの方々にも見守っていただき、本当に幸せで、感謝の気持ちでいっぱいです」(Bさん)

中野さんは、穏やかに語ります。

「お母様方のご感想は、学生や私にとっても非常に嬉しく、励みにもなる言葉です。馬とふれ合う会の雰囲気や、よく表してくださっていると思います。こういうことは、教えてできるものではありません。それをごく自然にできる部員たちを、顧問として誇りに思います」



丸馬場でクズの葉をあげる中野さん。「ここに来るだけでほっとします」とか。